



「派遣実習」開始！！

本校教育部農学科1年生103名による「派遣実習」が9月15日(火)から始まりました。本年度は、全国的な新型コロナウイルスの発生と感染拡大を受け、学校自体の開校時期が2か月近く遅れたことにより、派遣実習の実施が心配されましたが、概ね例年通り実施することができました。

本年度は、92戸(うち県内86戸)の受入農家で実習を受け入れていただき、10月23日(金)までの39日間行われます。

派遣実習初日の9月15日(火)は、県内各地域の農業改良普及課(駐在室を含む)11か所で開始式を行いました。例年とは風景が異なり、開始式は、新型コロナウイルス感染防止対策で全員マスク姿、3密を避けるためにできるだけ距離を取り、短時間の実施など対策を取りながらの開催でした。



[開始式の様子]

派遣実習は、農業について漠然としたイメージだけを持って入学してくる学生も少なくないため、より実践的な技術や経営方法、農家生活を先進農家等で体験し、実際の農業を肌で感じ学ぶ機会となっています。また、例年、派遣実習を通じて、農業への関心が高まり、将来、農業分野への進路を決める学生も多くいます。

学生たちは、感染防止対策に細心の注意を払いながら、派遣実習先で自らの持てる力を総動員して勉強や技術習得に奮闘し、10月23日(金)の最終日には、一皮むけてたくましくなった姿で帰ってきてくれることを楽しみにしています。

(農学科 川上 幸裕)

校外学習

先進農家から高品質栽培のための工夫を学ぶ in 西尾(切花専攻)

9月9日(水)に切花専攻2年生が、切り花農家の栽培技術を学ぶ目的で、西三河農林水産事務所農業改良普及課西尾駐在室管内のキク農家とバラの農業生産法人へ校外学習に行きました。

キク農家の松井繁之氏(西尾市)は、高品質なキクを作ること有名なキク共選組合ロイヤルマムのメンバーで、「精の一世」、「神馬」の2品種に絞って栽培していました。工夫している点は、①灌水施肥に養液土耕と頭上灌水を組み合わせて行っていること、②コストの安い単肥を購入して自分で配合していること、③病害虫防除に農薬だけでなく粘着板も利用していることなどでした。栽培しているキクは、茎の長さ、太さがそろった高品質のもので、学生は皆、感心していました。また、松井氏は、農業大学校の卒業生でもあり、学生からの質問に丁寧に答えてくれました。

松井氏が加入している西三河南部キク共選組合ロイヤルマムの選花場があるJA西三河あぐりセンター池田では選花の様子も視察し、収穫までは農家が行い、調整・出荷作業はJAが行うというバラ受け共選のシステムについても学びました。



[キクの選花の説明を聞く学生]

バラの農業生産法人、農事組合法人レインボー（西尾市）では、代表者の手島正治氏から高品質なバラを作るための工夫について話を聞きました。夏季は温室内を涼しくするため、日中は気化熱を利用したパッドアンドファンや外部遮光を利用し、夜間はヒートポンプによる冷房を行うなどして、高品質なバラが出荷できるように工夫していました。また、栽培管理にはマリンシステムという独自の環境制御装置を使い、環境測定装置「あぐりログ」も各温室に導入して、データに基づいた栽培を行っていました。



[バラの環境制御について説明を聞く学生]

今回の視察は、どちらも県内の先進的な切花農家であり、学生は、品質の高いキクやバラを作る現場の様子を熱心に視察しました。

農家の創意工夫に感心したとともに、切

花経営を取り巻く環境の厳しさを改めて知ることができ、有意義な校外学習となりました。

(農学科 近藤 満治)

中山間地域の水稲品種を学ぶ (作物専攻)

9月10日（木）に作物専攻の2年生8名が校外学習で、愛知県農業総合試験場山間農業研究所を視察しました。

谷本技師よりパワーポイントを用いて山間農業研究所の概要や育成品種、育種方法について説明がありました。特に、本県の中山間地域で栽培されるブランド米「ミネアサヒ」に、いもち病とイネ縞葉枯病に対する抵抗性を導入した新品種「中部138号」について、育種された背景や育種方法について重点的に説明を受けました。また、柔らかさが持続する糯品種「愛知糯126号」について紹介がありました。本品種は「短鎖アミロペクチン」を持った画期的な水稲糯新品種で、いもち病、イネ縞葉枯病の病気や倒伏、耐冷性に強く、安定した栽培特性を備えており、餅などの加工食品の柔らかさが長期間保持されるということで、後継者を中心に興味を持つ学生が多かったです。



[パワーポイントで説明を受ける様子]

その後、ほ場に移動し、個体選抜やいもち病抵抗性試験、耐冷性検定ほ場などの見

学を行いました。学生たちは系統や品種の多さに驚いていました。また、同じ親から生まれた子の性質（草丈・耐病性等）の違いに興味を示していました。



〔ほ場見学の様子〕

学生からは、病気が出やすい気象条件や「中部138号」が栽培できる地域、「愛知糯126号」を使用した商品についての質問があり、活発な意見交換が行われました。今回の校外学習を通じて、中山間地域での水稻栽培の難しさや中山間地域に適した品種特性について学習することができました。
(農学科 古川 恵)

悔しいことは後輩に託してね (果樹専攻)

9月11日（金）、果樹専攻2年生14名が農業総合試験場園芸研究部落葉果樹グループへの校外学習を行いました。上林落葉果樹研究室長より試験場の役割の説明を受け



〔試験場職員から説明を受ける学生〕

た後、それぞれの品目担当研究員の案内によりブドウ、ナシ、イチジクなどのほ場を見学、各試験の説明を受けました。



〔ブドウほ場の見学〕

ブドウ有望品種の栽培技術に関する説明では、品種に合わせた枝の仕立て方や樹勢コントロールによる品質や収穫期を調整する技術が話題となり、ブドウ担当の学生を中心に今夏の農大での生育、収穫を振り返りながら活発な質疑応答が行われました。当初、試験場への校外学習は生育期での実施を計画していましたが、コロナ渦により視察時期が遅れたことが悔やまれる結果となりました。今回、見聞きしたことを後輩にしっかりと伝え、我が校（農大果樹専攻）の栽培管理・果樹園経営に活かしてくれること期待します。

(農学科 長崎 晋作)

加工演習

ナスの調理方法を学ぶ（施設野菜専攻）

施設野菜専攻では、9月11日（金）に料理講師に山本先生を招き、農産加工演習を行いました。演習には2年生全員が参加し、旬を迎えおいしさを増したナスを主役とした調理に取り組みました。

午前中は、昔から愛知に伝わる「あいちサラダめし」と「ナスの浅漬け」をつくりました。サラダめしでは、穫りたてナスを乱切りして素揚げし、素早く皮をむき一口大に切り、そこにトマト、キュウリ、生タマネギで自家製ドレッシングをつくってか

けました。さらに、予め炒めておいた挽肉で肉みそをつくり、1枚のお皿にご飯と一緒に盛り付けました。先生から、料理はきれいに盛り付けることが大切ですとアドバイスがあり、食欲のわく盛り付け方法を勉強しました。

午後は、ナスとシメジを炒めてまんじゅうのあんこをつくり、蒸して「おやき」が完成しました。さらに、この他にもナスだけで「ナスのジャム」と「ナスゼリー」加工品をつくりました。



〔料理を熱心に学ぶ学生〕

学生は先生のレシピと直接指導により、手早く、短時間で多くのメニューができたことに感動していました。学生は日頃からナス栽培に携わっていますが、調理方法の少ないナスが一手間加えることで、おいしい料理に早変わりすることに驚いていました。今回、実習で覚えた料理を早く家に帰って家族に振る舞いたいと意気込んでいました。

(農学科 榎本 剛士)

2020年度JAバンクあいち就農奨学金が5名の学生に贈呈されました

JAあいち信連(JAバンクあいち)では、将来に向けた農業の担い手育成のため、独自の制度である「JAバンクあいち就農奨学金」制度を実施しています。

この制度は、本校の在校生を対象として

おり、3回目となる本年度は、卒業後、県内で就農に強い意欲のある本校の学生13名が、「私の目指す10年後の農業経営」をテーマに論文を応募しました。慎重なる審査が行われた結果、1年生2名、2年生3名の計5名が奨学生に選定されました。



〔贈呈式後の記念撮影〕

奨学金の贈呈式は、8月28日(金)にウイंकあいち(名古屋市)で行われ、主催者であるJAあいち信連の石黒経営管理委員会会長から奨学生全員に目録が授与されました。続いて、奨学生一人一人から決意表明が行われ、それぞれの農業への想い、就農に向けた決意、これから学校で学んでいきたいことなど力強く述べました。当日はテレビ局など多くの取材が行われ、学生も、緊張の中、良い経験ができたことと思われ

(教育部長 鷹羽 靖夫)

連帯意識を培う体育祭

8月27日(木)午後、本校グラウンド、体育館、青年の家体育館を会場に、ソフトボール、ドッジボール、バレーボールの競技が行われました。今年の体育祭は、コロナウイルス感染拡大防止措置による緊急事態宣言の発出にともない、開催時期を延期し縮小した形となりました。

学生は34℃を超える炎天下にもかかわらず、各競技では暑さに負けず、若いエネルギーを燃焼させ取り組むことができました。各競技種目は、学生にとって他専攻との対抗や賞品獲得への強い思いなどさまざ

まですが、今日では伝統的な専攻別対抗競技となってきています。学生は競技を通してチームメイトに対する思いやりや協力など、連帯意識を深める行事とすることができました。なお、今年度の体育祭の成績は下記のとおりです。

(学務科 坂口 卓司)

令和2年度体育祭成績結果

	ソフトボール	バレーボール	ドッジボール	総合
1位	作物果樹	露地野菜	施設野菜	①作物果樹
2位	施設野菜	切花	鉢物・緑花木	①施設野菜
3位	切花	作物果樹	作物果樹	③露地野菜



[青年の家体育館：バレーボール]

専攻紹介

【果樹専攻】

果樹専攻は、約2.5haの栽培面積で、ブドウ、ナシ、モモ、カキ、イチジク、ハウスマカン等を実習教材として栽培しています。栽培樹種が多いため、開花時期の4月上旬から収穫前の7月上旬まで、モモ、ナシの摘蕾・摘果や袋掛け、ブドウのジベレリン処理や房管理などの作業が競合して、大変な忙しさです。

夏休みは学生に当番で出てきてもらい、「実習販売」や「市場出荷」で販売する果物の収穫・調製作業を行っています。かなり多忙ですが、みんな暑い中でがんばっています。

現在、学生は1年生14名、2年生15名の合計29名で、大変賑やかに実習をしています。入学当初は多くの樹種の基本的な栽培

管理技術を学び、後に希望する樹種とプロジェクト学習のテーマを決めて、より専門的な知識・技術を習得します。今は収穫作業を終えてから調査を行っています。



[ナシの選別作業の様子]

今年のテーマは、『ナシ「あきづき」における環状はく皮処理が果実品質におよぼす影響』、『ブドウ「ゴルビー」における葉かきおよびマルチ被覆が果実品質におよぼす影響』などです。果実の収穫がほぼ終わる11月頃から本格的に研究成果をまとめます。

(農学科 佐野 達也)

【施設野菜専攻】

施設野菜専攻には、1年生16名、2年生13名の計29名が在籍し、10棟、40aの温室で、トマト、ナス、キュウリ、メロンの最新栽培技術を勉強しています。

最近、専業農家の子弟が増えている中、学生の要望に応え、本専攻では施設野菜に関する基礎知識から、より高度な環境制御技術を学べる教育体制を強化しました。昨年からミニトマト温室を高所誘引に変更し、環境測定機器「プロファイnder」による常時モニタリングと生育に応じた環境制御技術を学習に取り入れました。さらに、今年度は既存のトマト栽培温室2棟についても炭酸ガス発生機と高圧ミスト装置を新たに設置し、本格的な環境制御を学んでいます。

一方、2年間かけて進めてきた高軒高のICT温室8aが今年2月に完成し、3月からトマト栽培を行っています。ここでは環境自動制御装置の「プロファーム」を取り入れ、日射量に基づく光、温湿度、炭酸ガス、給排水などの環境要素を、コンピュータを用いて自動制御しています。学生のプロジェクト学習では、トマトの10a当たり年間収量35tを目標に、研究課題を設定して取り組んでいます。



[2年生全員集合]

施設野菜専攻ではここ2年で現場に遅れをとっていた施設改善が一気が進み、現場の一步先に行く温室を前に学生の士気が高まっています。

(農学科 榎本 剛士)

農業者生涯教育研修 農産物利活用研修

～農業のマーケティングと6次産業化～

8月31日(月)に農産物利活用研修「農業のマーケティングと6次産業化」の研修会を開催し、37名の6次産業化志向農家、実施農家、愛知農業次世代リーダー塾生、福祉事業所職員が参加しました。

令和2年度の農産物利活用研修2回目は、静岡県立大学経営情報学部教授の岩崎邦彦先生をお招きして、その1「農業のマーケティング」、その2「農業のブランドづくり」の2部構成で実施しました。その1では、マーケティングとは、顧客を生み

出し買い続けてもらうこと、消費者目線で考えることの大切さ、生産者と消費者との農産物に対するイメージが大きく異なることなどが語られました。儲けている農家は、1)客の声を聞く、2)価格決定権がある、3)売り場を確保している、4)シンボルとなる商品がある、5)女性が活躍しているなどが語られました。



[岩崎先生の講演の様子]

その2「農業のブランドづくり」では、選ばれるためには、ありがたい姿をしっかりと見据え、客の心に明快なブランドイメージを持たせなければならない。そのため、1)価値

性、2)独自性、3)共感性のある商品をつくる。そして、シンボルを造り、シンプルにして、イメージを絞り込むことでイメージが強くなり、選ばれる商品となることが語られました。逆転発想が大切で、商品の種類を増やす方向ではなく、絞り込むことが重要であると強調されました。



[ソーシャルディスタンスでの研修の様子]

アンケート結果から、参加者の9割以上の方が「参加して良かった」との回答が得られ、「たくさんの気づきがあった」、「消

費者目線の大切さがわかった」、「ブランドづくりは価値観、独自性、共感性が重要であることがわかった」など多くの積極的な意見が聞かれ、有意義な研修会となりました。(就農支援科 河野 真砂子)

大特免許研修・けん引免許研修と 技能試験を実施しました

研修部が実施する大型特殊自動車免許の取得を目的とした「大特免許研修」とけん引免許の取得を目的とした「けん引免許研修」(いずれも農耕車限定)は農業機械研修の大きな柱となっています。

大特免許研修は、受講希望が大変多く、昨年度より1回増やし8回を予定しています。第1回を7月7日(火)から9日(木)、第2回を7月13日(月)から15日(水)まで実施し、定員の38名が受講しました。研修では、踏切の通過や方向変換などの課題を含んだコースの安全走行練習や技能試験さながらの模擬試験を行います。受講生の年齢層は、20歳代から70歳代と幅広く、運転のクセも様々ですが、初心に立ち返り、交通法規に基づいた走行を再認識していただきます。

また、けん引免許研修は、大特免許を取得した農業者を対象に、今年度2回予定しており、第1回を8月6日(木)から12日(水)まで休日を除く4日間実施し、8名が受講しました。けん引操作で特に難しい点は後進であるため、後進による進路変更や方向変換の練習に多くの時間を充てています。研修後半には、大特免許研修と同様にコースの安全走行練習と模擬試験を行います。

そして、7月29日(水)と8月26日(水)の技能試験は、愛知県警察本部運転免許試験場の試験官に出張していただき実施しました。研修で練習を重ねた運転コースを使用して行う技能試験は、本校農業機械研修の大きな特長の一つです。また、技能試験直前に行う自由参加の事前練習も高い合格

率の確保に寄与しています。この2回の技能試験で、今回の研修生に加えて本校学生の「資格取得講座」受講生も受験し、合わせて64名が大特免許を、8名がけん引免許を新たに取得しました。



[技能試験の様子を見守る]

なお、技能試験は、今年度中にあと4回実施予定です。

(担い手支援科 落合 敏弘)

消防防災訓練を実施しました

愛知県では東海地震・東南海地震など、いつ大きな地震が起こってもおかしくないと言われていています。大きな地震に備えるため、防災の日の9月1日(火)、農学科生と職員を対象に消防防災訓練を実施しました。

午前11時に大規模地震が発生し、その地震により和耕寮から火災が発生したとの想定のもと、地震発生と同時に、各自がその場で「姿勢を低く」「頭を守り」「じっとする」3つの動きを身に付けるあいちシェイクアウト訓練に取り組みました。その後、学生は職員の誘導のもとに学生寮から運動場に避難しました。

運動場では、自衛消防本部設置訓練として、通信連絡班による消防車出動要請、避難誘導班による学生・家畜の避難誘導、救護班による負傷者の有無等の状況報告を実施しました。また、消火班は中央教育棟1階ホールにある消火栓を使った放水訓練を

行い、使用方法を確認しました。放水訓練後、岡崎東消防署職員の協力により、運動場で学生及び職員が水消火器を使った消火訓練を実施しました。



[職員による放水訓練]



[水消火器での訓練]

今回の訓練で、学生や職員の防災意識が高まり、実際の発災時にも慌てず落ち着いて避難や消火活動ができるよう期待しています。

(管理課 森 美砂子)

農大からのお知らせ

◇新型コロナウイルス感染防止のためのお願い◇

校内における新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、3つの密を避け、マスクの着用、手洗い・手指消毒を励行するなど、学生や研修生、職員への感染防止対

策に取り組んでいます。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

なお、行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期もしくは中止となる場合があります。その際は、農業大学校ホームページ等でお知らせします。

◇緑の学園（1日農業体験学習）◇

- ・開催日時
第4回 12月24日（木）
午前10時から午後4時30分まで
(雨天実施)
- ・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
- ・定員：30名
- ・場所：農業大学校
- ・受講申込書を郵送又はファクシミリで研修部まで送付してください。
(締切日：12月1日（火）)
- ・詳細は本校ホームページを御覧ください。
- ・問合せ先：就農支援科（柴田）

0564-51-1034

◇令和3年度入学者選抜試験◇

- 一般推薦入学試験
 - ・出願期間：令和2年9月29日（火）から令和2年10月15日（木）まで
 - ・試験日：令和2年10月30日（金）
 - ・合格発表：令和2年11月12日（木）
 - ・試験科目：小論文（800字以内）
面接試験
- ・募集人員：定員100名のうち2／3以内（特別推薦入学者を含む）
- ・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験

- ・出願期間：令和2年11月12日（木）から令和2年11月26日（木）まで

- ・試験日：令和2年12月8日（火）
- ・合格発表：令和2年12月18日（金）
- ・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
面接試験
- ・募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数
- ・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験

- ・一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他

- ・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ホームページを御覧ください。
- ・問合せ先：学務科（近藤）0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和2年10月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・販売日：10月7日、14日、21日、28日
（祝日を除く毎週水曜日です。）
- ・時間：午後3時から
- ・場所：農業大学校体育館他
※なお、袋入り堆肥は、第2機械庫前で販売します。（毎月第2水曜日）
- ・問合せ先：農学科（山本）0564-51-1673

校内でCSF(豚熱)防疫対策実施中

農大では、CSF防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 関係車両等の消毒の徹底
（車両消毒槽、動力噴霧器）
- その他、諸防疫対策を実施

◇農業大学校の公式 SNS の アカウントを開設 !! ◇

農業大学校の公式 SNS として Twitter、Instagram のアカウントを開設しました。ユーザーネームは「aichinoudai」です。学校行事や専攻学習・実習販売の情報等、日々の活動を投稿していきますので、是非御覧ください。

- ・問合せ先：農学科（古川）0564-51-1673